

# 朝日新聞研究

酒井信彦



△2△

## 慰安婦問題大きく取り上げた責任は

を封印したに  
過ぎない。

がある。先の検証結果に  
は、日本政府の「強制連行

の文化・歴史欄の「歴史認  
識の根っこ」に、「日韓の

が、女性の人権問題  
となると、時間的に  
も空間的にも一挙に

「河野洋平官房長官談  
話」の作成過程の検証結果  
が6月20日、公表された。

極めて長文だったが、ハッ  
キリしたことは、日韓両政  
府が事前にすり合わせた、  
徹底的な政治的妥協の産物  
であつたことである。

これに関する翌21日の朝  
日社説には、奇妙なところ  
がたくさんある。

例えば、「韓国にすれ  
ば、日本側から秘密にしよ  
うと持ちかけられたことで  
ある。それなのに了承もな  
く、一方的に公表されるのは  
は信義に反することにな  
る」とある。だが、談話発

転じた。もう談話に疑義を  
はさむのはやめるべきだ」ともある。

# 河野談話見直しを率引



日本を貶める談話を発表した河野氏=1993年8月4日

二つの顔がある。一つは  
『歴史認識問題』としての  
顔であり、もう一つは『女  
性の人権問題』としての顔  
だ」とし、「日本では慰安  
婦の動員に国が関与したか  
どうかといった点が主に議  
論されるが、韓国でのこの  
問題の主流は人権問題に移  
りつつある。だからこそ、  
海外の人権団体なども積極

的議論に参入して  
いる」という。  
河野談話などの歴  
史認識問題は、日本  
と韓国との問題だ  
が、女性の人権問題  
となると、時間的に  
も空間的にも一挙に  
普遍的な問題とな  
る。最近の韓国での  
米軍慰安婦による国  
家賠償訴訟もこの流  
れに沿つており、日  
本占領時代の米軍  
や、ベトナム戦争で  
の韓国軍の行為(ラ  
イダイハン問題など)  
も追及されなけ

ればならない。  
先の朝日新聞の社説で  
は、「もっとも大切なのは  
は、元慰安婦たちの救済で  
あることは論をまたない」  
とあるが、一体どのように  
救済すればいいというの  
か。一日も早く救済しなけ  
ればならないのは、現在も  
東南アジアなどに存在する  
少女売春婦ではないのか。

論点のすり替  
えを画策して  
いたと思わざ  
るを得ない面  
がある。



酒井信彦



△2△

さかい・のぶひこ 元東京大学教授。  
1943年、神奈川県生まれ。70年3月、  
東大大学院人文科学系研究科修士課程修了。  
同年4月、東大史料編纂所に勤務し、  
「大日本史料」(11編・10編)の編纂に従事。  
現在、明治学院大学非常勤講師や、月刊誌  
でコラムを執筆する。著書に「虐日偽善に  
狂う朝日新聞」(日新報道)など。

する一方、アジアの民族問題などを中心  
に研究する。2006年3月、定年退職。  
現在、明治学院大学非常勤講師や、月刊誌  
でコラムを執筆する。著書に「虐日偽善に  
狂う朝日新聞」(日新報道)など。

## 欺瞞に気づき論点すり替え画策か

は、元慰安婦たちの救済で  
あることは論をまたない」と  
あるが、一体どのように  
救済すればいいというの  
か。一日も早く救済しなけ  
ればならないのは、現在も  
東南アジアなどに存在する  
少女売春婦ではないのか。